



う。多くの北海道の地域そして長沼で今後、水田経営が良いかどうかの判断をする勇氣ある者は少ない。ただ答えは40年以上前からの水田休耕・転作事業が始まっていることを考えれば……。

昔から嘘つきはいる。25年ほど前から本格的に営農を始めた時、プラスチック製パイプのセールスマンは「今回のパイプはどんな機械が乗ってもつぶれません」と自信満々で言っていた。結果は呆れるくらい排水口から水が出てこない、ひどく潰されたパイプになっていた。そんな会話が数年おきに繰り返させ、二度とパイプを使うことはないし、地域を見てもだまされる者は少ない。

こんなこともあった。ちょうどそのころ民間ではない団体が考え出した、浅暗渠なる技術が導入されることになった。水は表面に溜まる、だから土表面から60cmくらいの所に暗渠パイプを施工する技術だが、これが散々たる結果となる。やはり暗渠は最低1mよりも深い所に施工しなければ本来の能力を発揮できないようだ。もう一つ、プラスチック製のパイプの欠点は所詮、土の生物で分解できない産業廃棄物であることだ。施工後30年も経てば、浮力で地表付近に上昇してくる。それをサブソイラが引っかけてしまう。

一体、粉々になったパイプを片づける作業負担は誰がやるのか、と暗渠の度に考え込んでいた。そして心のどこかでみんなが悩んでいるのだから、何か新しい技術の到来の予感がしたのもやはり同じころだった。それが「無材暗渠」と呼ばれる北海道・江別市の民間企業で考えられた新技術である。この辺のことは改めてページを割くことになるだろう。

暗渠で悩んでいた時、あたかも天から舞い降りた妖精のごとく、救いの手を差し伸べていただけ、ありがたい話があった。湿害の状況を見かねてか、スガノ農機千歳営業所からある提案があったのだ。「畑の凹凸を平ら、もしくは3次元的に傾斜を作ることが出来るスガノ製のレーザーレベラーで水はけを良くしましょう」というものだった。既存のレベラーは水田用に作られたが、今回のレベラーは畑専用、ただし試作品なので、トラクターを提供するだけでデータ取りをするためのデモと言うことになった。とはいっても、測量を行ない、数値を出してプリンアウトされた立体画像を見た時に「良い仕事してますね」と思った。数値では480mの移動が必要で、これでは3日ほどかかり、後の日程も詰まっていたので、とりあえず1日でやれるだけやろうと言うことに

なった。結果は240mの土の移動であったが、その後の水の溜まり具合から、この畑用のレーザーレベラーの未来は明るいと思った。スガノ農機さんの宣伝はこんな感じでよろしいでしょうか？

## あなたは誰と戦略的互恵関係を結びましたか？

さて年末が近づくと、皆さんもご存じの恒例の行事がある。それは本年、巷を飛びかかった流行語大賞の発表の季節でもある。本年は「ツイッター」「戸籍上生存」「食べるラー油」などが候補かも。

私の本年のイチオシは中国との関係を示した「戦略的互恵関係」だ。「対立」から「嫌いだけど、とりあえず仲良くしましょう」と言う日本語らしい。そんなわけで私がこの1年微笑ましい戦略的互恵関係を築いた思い出をご紹介します。1月 ヤッターマンのカラオケがうまかった坊主の娘。2月 米国の片田舎の飛行場でアルバイトの女性店員から「まるかいて地球♡」と日本語で突然言われた。3月 病気で寝たきりだと聞いていたおじさんが滋賀県の大津駅まで自家用車で迎えに来たこと。4月 春になり農作業が忙しくなるのでしばらく来ませんと言ったら、

また太りますよと脅したジムのインストラクター。

5月 V8の愛車のブレーキパットは、まだ2年持ちますよと言って、1年でローターまで破損してしまい、35万円請求したヤ○セのフロント。

6月 どんな男が好きだ？と聞いたら、スイス人の様な男性が好みだと宣った女性従業員が働き始める。

7月 オー・イエス！と言いながら目の前のミラーを気にしながらバックが下手な派遣社員（トラクタの運転）。

8月 5ルーブル借りて、後で10ルーブル渡したら、お釣りをくれず、そして決して笑わなかったモスクワの女性通訳。

9月 道北に住む32年前に可愛かった女性がオバちゃんになっていた。

10月 僕、女よりも男が好きですと言って、ニューハーフのカレンダーをじっくり見ていた地元長沼のアルバイト男子高校生。

11月 農作業も終わり、東京に別件を作りだすオヤジ。

そして12月は豊かな戦後を作ったのは日本人が頑張ったのだと考えるならば、12月23日に極東国際軍事裁判で絞首刑になった7名の英霊に合掌すべきだ。そしてこんなコラムを読んでニタニタしている**変わり者の皆さん**にメリークリスマス。